

2月24日、高槻市生涯学習センターで「高碕達之助に学ぶ会」の発足記念講演会が開かれました。この会は高槻市柱本生まれの高碕翁が残した功績を市民に広く知ってもらい、今後の人生に役立ててもらおうと立ち上げられました。

講演に先立って、会場ロビーでは高碕翁の人生の足跡を、年表と多数の写真で紹介、会場内では「桜守の詩」の上映が行われました。



開催の挨拶

講演会開始に当たり、角会長より開催の挨拶として、「高碕翁を顕彰することで、品格と誇りを持った高槻の風土作りと、志とロマンを有する青少年の育成」と言う会設立趣旨・目的が述べられました。また、御列席頂きました濱田市長、山口市議会議員、柳本参議院議員から祝福のお言葉と、関係多数からの祝電披露がありました。



基調講演

「日中をひらいた男高碕達之助」の著者元朝日新聞記者の牧村健一郎氏が、高碕先生の現場主義、長期的な視点、相互信頼。実務者に誇りと満足感、常に新しいこと、未知なこと、困難なことに挑戦など、人間力の視点から「LT貿易協定」「佐久間ダム建設」「荘川桜」等々、高碕先生の魅力を語られました。



パネルディスカッション

社史ライターの高津さん司会で、元商工会議所会頭の大木さん、甲南大学教授の胡金定さん、元東洋製罐（株）専務の甘田さん、高碕翁研究家の北村さんの4人がパネラーとして夫々の高碕翁観を述べられました。



大木さん：高碕翁の茨木中学時代・バンドン会議を通じて、翁は豪放磊落で桁外れの人物、ご自分の虜にする人であった。その反面戦後の日本人引き上げ、荘川桜においては情けの人であり勉強すればするほど面白い方であった。

胡金定さん：中国社会に於いて家に招かれると言う事は信頼の証しである。高碕翁がLT貿易締結に果たした大きな功績はこの信頼関に依っている。高碕翁は戦前・戦後を通して、家に招かれ、招くと言う強い信頼関係を中国関係者との間に築いていた。

甘田さん：翁を一言で言うなら「ものづくりのベンチャー魂」の人、日本の製罐（=世界）の先端を走っていた人であった。心意気に於いては清廉潔白であり、合理性と人間性を両立させる素晴らしい起業家であった。

北村さん：生き物好きで、「皇居の白鳥、動物園の理事長時代、ダチョウの飼育」、等々の逸話の持ち主。米国からマイヤーレモンを持ち帰った人。翁の特徴としては、例え話が上手で話が面白く、その中に優しさが感じられる。



参加者からの質問

「高碕のどこに惚れているのか?」「このような活動を継続するにはどうしたらよいか」「高槻には先人を尊敬する風土はあるのか?」「今の日中関係をどう思うか?」など活発な質疑応答が和やかな雰囲気の中進められました。当日は定員をはるかにオーバーする350人もの方が集まり、3時間にも及ぶ講演会になりました。高槻にもまだまだ先人に学ぶ風土があるようです。

【3月例会】 3/5:「発足記念講演の反省と再確認」 於:高槻現代劇場:201号
3/19:「山崎旭萃と高槻」(予定) 於:生涯学習センター第三会議室

【語り継ぐ会連絡先】 馬淵晴彦

FAX:072-689-3674

メール:h_mabuchi@office.zaq.jp

HP: <http://takatuki-meijo.sakura.ne.jp/>

NPO 法人

高槻名誉市民を語り継ぐ会